

2022年9月及び年度上期(4-9月期)のアルミニウム圧延品の生産・出荷動向について

2022年10月28日



1. 2022年9月のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

- ◆ 概況：
- ・板： 生産・出荷ともにマイナス。「自動車」は増加に転じたが、半導体製造装置向け厚板を含む「その他」が大幅に減少した(▲21.1%)。
 - ・押出： 生産・出荷ともにマイナス。最大用途の「建設」が減少したため、「自動車」は増加に転じたものの、全体ではマイナスとなった。
 - ・はく： 生産・出荷ともにマイナス。コンデンサ、リチウムイオン電池など「電気機械器具」の減少が継続している。

・板類(主な分野のコメント) * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 缶材 32,351トン (▲ 3.8%)：昨年が旺盛な家飲み需要により高水準だったためマイナスとなったが、数量としては例年並み。
- (2) 自動車 15,921トン (7.1%)：国内の四輪車生産台数が前年比増となり、13ヶ月ぶりにプラスに転じた。

2022年8月の国内四輪車生産台数：584,291台(前年同月比+21.5%)

・押出類(主な分野のコメント) * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 建設 35,071トン (▲ 9.9%)：住宅着工戸数はプラスだったが、1戸あたりのアルミ使用量が減少していることなどから、マイナスとなった。
2022年8月の住宅着工戸数：77,712戸(前年同月比+4.6%)
- (2) 自動車 10,614トン (4.7%)：板同様、国内四輪車の生産台数の回復に伴い、プラスに転じたが、トラック向けはマイナスだった(▲14.5%)。

・はく(主な分野のコメント) * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 電気機械器具 5,034トン (▲ 20.6%)：前年が高水準だったこともありコンデンサ、リチウムイオン電池向けともにマイナスとなったが、出荷は回復傾向。
コンデンサ：▲29.3%、リチウムイオン電池：▲14.5%
- (2) 食料品 2,066トン (0.1%)：レトルトパウチなど包材の一部でアルミからプラスチックへの素材転換が起き、減少したものの行動制限がなくなり外出機会が増加、「製菓用」などがプラスとなったことから、全体では前年並みとなった。

◎2022年9月 生産および出荷(前年同月比、▲はマイナス)

	生産(トン)	前年同月比(%)	コメント		出荷(トン)	前年同月比(%)	コメント
板類	93,601	▲ 5.0	5ヶ月連続でマイナス	板類	90,768	▲ 4.6	6ヶ月連続でマイナス
押出類	56,372	▲ 10.0	9ヶ月連続でマイナス	押出類	57,313	▲ 9.4	7ヶ月連続でマイナス
板押計	149,973	▲ 7.0	6ヶ月連続でマイナス	板押計	148,081	▲ 6.5	7ヶ月連続でマイナス
はく	9,241	▲ 20.2	7ヶ月連続でマイナス	はく	9,229	▲ 16.5	7ヶ月連続でマイナス

2. 2022年度上期（4-9月期）のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

（前年度比(%)、▲はマイナス）

	生産（トン）	前年度比(%)	コメント		出荷（トン）	前年度比(%)	コメント
板類	578,559	▲ 2.9	マイナスに反転	板類	573,502	▲ 4.3	マイナスに反転
押出類	333,800	▲ 6.0	マイナスに反転	押出類	339,683	▲ 5.4	マイナスに反転
板押計	912,359	▲ 4.1	マイナスに反転	板押計	913,185	▲ 4.7	マイナスに反転
はく	53,821	▲ 16.6	マイナスに反転	はく	54,077	▲ 15.3	マイナスに反転

◆ 概況

2022年度上期(4-9月期)のアルミニウム圧延品は、国内自動車生産台数の減少などが影響し、前年度のプラスから反転しマイナスとなった。

板類は、「自動車」が半導体不足や、中国のゼロコロナ政策による都市封鎖などから部品供給不足が発生、国内の四輪車生産台数が大幅に減少したことによりマイナス、「缶材」は外出機会が増えたことから家飲み需要は減少しマイナス、一方印刷版を含む「その他金属」や半導体製造装置向け用の厚板を含む「その他」は増加した。

押出は、最大用途である「建設向け」が住宅着工戸数の減少や、サッシの樹脂化、アルミ樹脂複合化により一戸当たりのアルミ使用量が減ったことなどからマイナス。

箔は、「電気機械器具」がリチウムイオン電池、コンデンサともに大幅に減少、「食料品」もマイナスとなった。

◆ 主な分野のコメント： *数字は出荷量、カッコ内は前年同期比

板類

(1) 缶材 206,098トン (▲ 4.8%)：感染症対策のための行動制限がなくなり、外食機会が増加する一方、家飲み需要は減少したことからマイナスとなった。

(2) 自動車 83,720トン (▲ 15.4%)：半導体不足に加え、中国のゼロコロナ政策による都市封鎖で部品不足や供給網の混乱が発生、国内の四輪車生産台数が減少した。

（自動車向け板の推移 2019年；98,041トン、2020年；68,034トン、2021年；99,017トン）

押出類 (1) 建設 207,045トン (▲ 1.8%)：住宅着工戸数の減少や、一戸当たりのアルミ使用量の減少によりマイナスとなった。

（2022年4-8月の住宅着工戸数：368,776戸 (▲1.0%)）

(2) 自動車 56,590トン (▲ 13.0%)：板同様、国内の四輪車生産台数の減少によりマイナスとなったが、二輪車向けは昨年に続き需要は堅調(+12.2%)

はく

(1) 電機機械器具 28,658トン (▲ 24.8%)：リチウムイオン電池は自動車生産台数の減少により車載用が大幅に減少、コンデンサーは部品不足や上期前半に硝酸不足が発生したことなどにより減産した。

(2) 食料品 11,630トン (▲ 1.9%)：「製菓用」「飲料用」は行動制限の解除や乳酸菌飲料のヒットなどにより増加したが、レトルトパウチが湯せんから電子レンジ対応のプラスチック包材に切り替わるなど、一部食品で素材転換があり全体ではマイナスとなった。